

ワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）
基本構想

令和7年9月

目次

第1章 基本構想策定の背景	01
1.1 国内外の社会情勢	01
1.2 福岡県の状況	02
1.3 ワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）整備における関連計画	03
第2章 基本構想	04
2.1 基本構想策定の目的	04
2.2 目指す姿・果たす役割	04
第3章 展示計画	05
3.1 各エリア概要・展示手法例	05
3.2 展示ゾーニング（案）	16
3.3 教育・普及	17
第4章 運営計画	19
4.1 集客計画	19
4.2 開館時間・入館料の設定	20
4.3 類似施設事例	21
4.4 運営方式	24
4.5 運営形態	25
4.6 整備スケジュール	26

第 1 章 基本構想策定の背景

1.1 国内外の社会情勢

新型コロナウイルスなど、人に感染症を引き起こす微生物は、現在確認されているものだけで 1400 種以上あり、このうちの約 60%が人獣共通感染症を引き起こすとされています。こうした人獣共通感染症は、人口増加、森林開発や農地化等の土地利用の変化、これらに伴う生態系の劣化や気候変動等によって人と動物との関係性が変化したために、元々野生動物が持っていた病原体が様々なプロセスを経て人にも感染するようになったとされています。

加えて、薬剤耐性菌の対策も、国際社会で大きな課題となっています。抗微生物剤は、感染症の治療に重要な役割を果たします。抗微生物剤の不適正使用により、抗微生物剤が効かなくなる AMR の問題は、密かに感染が拡大しているという意味合いで「サイレントパンデミック」と呼ばれています。AMR に対して、このまま何も対策がとられないと、2050 年には全世界で AMR 関連の死亡者数は毎年 1,000 万人に上り、現在のがんによる死亡者数を上回ると言われています。

このような課題に対して、人の健康、動物の健康、環境の健全性を一つと捉え、それらを一体的に守るワンヘルス・アプローチにより解決していくことが世界的に重要視されています。2022（令和 4）年には、国連食糧農業機関（FAO）、国連環境計画（UNEP）、世界保健機関（WHO）、国際獣疫事務局（WOAH）の 4 国際機関が「ワンヘルス共同行動計画」を策定したほか、2024（令和 6）年 6 月に開催された「G7 プーリア・サミット」においては、2021 年から 2023 年の G7 サミットに引き続き、ワンヘルスに関する首脳声明が採択されるなど、今や、ワンヘルス・アプローチは世界的な潮流となっています。

わが国においても、2022（令和 4）年に新型コロナウイルスや新興感染症の危機に備える対応方針を正式に決定、2025（令和 7）年 4 月には、国立感染症研究所と国立国際医療研究センターを統合して、感染症に関する科学的知見の基盤・拠点となる新たな専門家組織として、国立健康危機管理研究機構が発足し、感染症の対応能力の向上を図っています。

1.2 福岡県の状況

2016（平成 28）年に北九州市で開催された「第 2 回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議」において、ワンヘルスの理念を実践する基盤となる「福岡宣言」が採択されて以降、福岡県では「福岡宣言」の地として、我が国の中でも先んじてワンヘルスに取り組んできました。2020（令和 2）年 12 月には、全国で初となる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定しました。2022（令和 4）年 3 月には、条例に基づき実施する施策又は取組を体系的に整理した「福岡県ワンヘルス推進行動計画」を策定しました。

その中で、人の健康と環境の保全に関する調査・研究機能を持つ保健環境研究所と、動物の保健衛生を一元的に扱う動物保健衛生所とが相互に連携した「ワンヘルスセンター」を整備し、人獣共通感染症対策や薬剤耐性菌対策等に関する調査・研究や人材育成等を推進することとしています。

1.3 ワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）整備における関連計画

以下の関連計画に基づき、ワンヘルスセンター内に、ワンヘルスに関して学び、体験することができるワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）を整備することとしました。

（1）新・保健環境研究所建設基本計画

子供たちをはじめ県民が健康や生物、環境に関する問題に興味を持ち、自らできることを考えて、行動することにつながるため、ワンヘルスについて学び、体験できる施設を整備します。

（出典：新・保健環境研究所建設基本計画 第3章 必要な機能と整備方針 3.3 整備方針（5）教育、普及啓発）

（2）福岡県動物保健衛生所（福岡県筑後家畜保健衛生所）基本構想

調査・研究等で得た情報を、関係機関と連携して県民や事業者に広く情報を発信し、人や動物の健康に役立てます。

さらに、動物保健衛生所の活動内容（調査等の内容、目的、安全性確保等）や、本県が進めるワンヘルスの取組等に関して、情報発信、普及啓発活動及び県民の方々との交流等を積極的に推進し、これらに関する理解の促進と、県一丸となつてのワンヘルスの推進に貢献します。

（出典：福岡県動物保健衛生所（福岡県筑後家畜保健衛生所）基本構想 第2章 動物保健衛生所が目指す姿 2.3 新たに付加する役割（2）具体的な役割の整理 ③情報発信・普及啓発等）

第2章 基本構想

2.1 基本構想策定の目的

令和9年度中の供用開始を目指しているワンヘルスセンター内に、屋内外が一体となった「ワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）」を整備するにあたり、目指す姿や展示計画、運営計画等を定める基本構想を策定します。

2.2 目指す姿・果たす役割

(1) 目指す姿

人と動物、環境の相互のつながりを学び、全ての人が自分事としてワンヘルスの大切さを実感することによって、ワンヘルスの視点で自分の人生や未来の地球の姿などを考え、実践するきっかけをつくる場を目指します。

(2) 果たす役割

○ 世代を超えて多くの人が学習できる場

ワンヘルスの理念を、あらゆる世代がそれぞれの視点で学び、参加・実践できる場とします。

○ ワンヘルスを自分事として捉える場

ワンヘルスの理念を、来場者みんなで考えることで、自分のこととして捉えられる場とします。

○ ワンヘルスの取組を支える次世代の人材を育成する場

ワンヘルスの推進に向け活躍する、多くの専門家の仕事に目を向け、ワンヘルスに関わる人たちがどのような想いをもって取り組んでいるか理解してもらい、次世代を担う人材を育てることへとつなげる場とします。

○ ワンヘルスの取組が将来（未来）にわたるものであることを学ぶ場

ワンヘルスの取組を、今という「点」で終わらせることなく将来（未来）へと続く「線」として捉えてもらうきっかけをつくり、ワンヘルスの取組を次世代に伝えていく場とします。

○ ワンヘルスの先進地である本県の取組を世界に発信する場

全国でも類のないワンヘルスを体験学習する場として、ワンヘルスに関する本県の取組や体験学習の内容などを世界に向けて発信していく場とします。

第3章 展示計画

3.1 各エリア概要・展示手法例

※以下は、基本構想段階での案であり、今後の展示設計において、空間ゾーニングや展示配置計画を検討する中で精査します。設計をとりまとめていく中で、特定のテーマをまとめて取り扱うなど、詳細の内容を変化させていくことが想定されます。

※展示解説は日本語と英語を併記することを検討します。

3.1-1 導入展示

(1) 福岡県のワンヘルスの取組

ワンヘルスについて、その概要・背景や普及・推進に努めてきた本県の取組について紹介する情報展示です。

【主なテーマ要素】

世界におけるワンヘルスの取組

基本的な情報提供として、ワンヘルスという考え方が世界的に重要になった背景や経緯を紹介します。

福岡県の取組

本県がワンヘルスに力を入れた経緯や、全国で初となる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」など、本県における取組を紹介します。

3.1-2 屋外ゾーン

屋外に、生物多様性豊かな 1960 年代の筑後地域の里地里山及び田園・掘割の景観や生態系を再現した、総面積約 10,000m²のビオトープを整備します。屋外に生息する昆虫、水生生物、植物などを直接観察することで、ワクワクするような体験を得ることができ、来場者に生物多様性の保全について興味を持ってもらいます。また、自然との触れ合いの中で、人と動物と環境のつながりについて実感してもらいます。

里地里山体験プログラムなどを実施することで、人間の働きかけにより里地里山などの自然環境が保たれることを学び、生物多様性を回復するために自らできることを考え、行動変容につながるきっかけをつくることができます。

屋外ゾーン イメージ



3. 1-3 展示・休憩スペース

身近なワンヘルスの取組についての展示を行います。家の中や街中など、日常生活の中で起こる誰もがができる小さな行動がワンヘルスの取組につながることを学ぶ展示を配置します。併せて、来場者の休憩スペースとします。

(1) きっかけ展示 ワンヘルスガチャ

ワンヘルスという新しい考え方への興味は体験する人それぞれで違います。誰もがワクワクしながら体験できるカプセルトイを模した装置を使って、ワンヘルスの体験学習を始めます。カプセルには、おすすめの体験ルートなどが入っています。カプセルはランダムに出てくるため、初めてワンヘルスというテーマに触れる来場者はもちろん、リピーターとして訪れる来場者も新鮮な気持ちで体験学習に向き合うことができます。

(2) 家にあるワンヘルス

身近な家の中にも、実はワンヘルスの取組につながる事柄がひそんでいます。そんなワンヘルスにつながるトピックスが表現されたキッチンやリビング、洗面所などのミニチュアジオラマから、身近なワンヘルスの取組を調べてみる体験を提供します。

(3) 街のなかのワンヘルス

「街」をテーマにワンヘルスに関するトピックスを体験してもらいます。わたしたちの健康と密接に関わる病院や、「食」に関するレストラン、「衣」に関するアパレルショップなど、生活に密着した内容からワンヘルスについて学んでもらう展示を展開します。

(4) 世界に広がるワンヘルス

「家」から「街」へと広げてきた視点を、「都市」や「社会」などより広い世界につながる視点へと拡張します。

(5) こちらワンヘルス取材班

より主体的に学ぶしかけとして、ワンヘルスに関するトピックスを編集・配信し、他の体験者と共有するしくみを検討します。想定される内容としては、来場者自身の展示体験活動やワンヘルスに関するトピックスを発信したり、「ワンヘルス新聞」を作成するワークショップなどを行います。

展示・休憩スペース 内観イメージ



3.1-4 展示室1 いのちを支えるプロフェッショナル

保健環境研究所や動物保健衛生所をはじめとした、人・動物・環境のつながりを支える専門家たちがワンヘルスの理念を実践していることを学び、次世代の人材育成につなげます。

微生物（細菌、ウイルスなど）の検査・研究のプロフェッショナル

身近な病気と細菌・ウイルスの関係を紹介し、普段の生活とのつながりを感じてもらう情報提供を行います。また、食中毒の原因となる細菌、ウイルスの検査や研究を紹介します。

ワクチン開発のプロフェッショナル

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）でも注目されたワクチン開発は、人獣共通感染症への対応にも欠かせないものです。ワクチン開発について、そのしくみや開発方法について紹介します。

薬の安全のプロフェッショナル

後発医薬品（ジェネリック医薬品）の試験検査や、危険ドラッグの成分分析などについて紹介します。例えば、ジェネリック医薬品の試験検査というテーマでは、溶出試験をモチーフに、錠剤がどのように溶けて有効成分が国の基準にあった効果を発揮しているかなどの展示の展開が考えられます。

食の安全のプロフェッショナル

人と農産物、自然環境の関わりなど、食品の品質に関する試験検査・調査研究について紹介します。例えば、クロマトグラフィーの原理を体験するなど、食中毒の検査や、食品中の残留農薬に関する検査などの展示が考えられます。

環境保全のプロフェッショナル

県内の水環境や大気環境に関する調査・研究、3R（リユース・リデュース・リサイクル）の推進などの取組について紹介します。

例えば、わたしたちの暮らしの中で重要な要素である大気について、大気汚染物質の調査・研究などの活動について紹介します。また、環境DNAの研究では、自然環境中に動物（魚類、鳥類、哺乳類など）が落としたDNAを採取して、生息状況などを調べていることなどを紹介します。

産業動物のプロフェッショナル

私たちの食を支える、ウシやブタなどの産業動物の健康について考えることで、食を通じた人間と動物の関係を改めて見直し、私たちの健康について考えます。例えば、産業動物に関する伝染病（鳥インフルエンザ、牛海綿状脳症（BSE）など）について紹介すると共に、伝染病が発生した際の対応など、産業獣医師の幅広い活動についても理解を深めてもらいます。

愛玩動物のプロフェッショナル

臨床獣医師との連携を通じて、ペットの人獣共通感染症を把握する調査や保健衛生相談といった活動を紹介することが考えられます。

展示動物のプロフェッショナル

鳥類や哺乳類などの人獣共通感染症に関する動物園からの保健衛生相談などの活動を紹介することを検討します。発展的なトピックスとして、ワンヘルスの考え方を踏まえた専門家同士の連携の一つとして、展示動物の健康管理・飼育環境づくりなど、動物園ではたらく飼育員や獣医師といった、子どもたちにも興味をもってもらいやすいと思われるテーマについての紹介が考えられます。

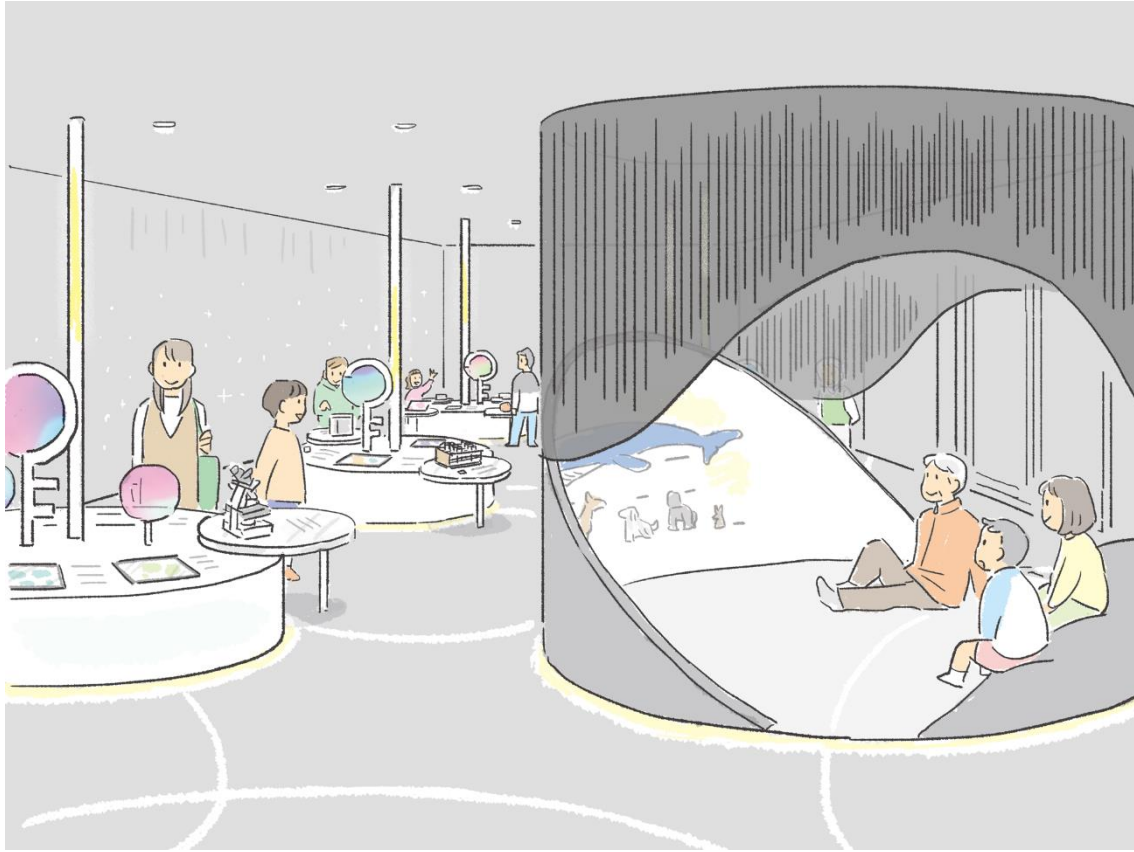
野生生物のプロフェッショナル

イノシシやシカなどの有害鳥獣などを対象に行っている人獣共通感染症の感染状況の把握に関する調査・研究などの活動を紹介します。また、希少種の飼育・保全や生態系の保全についての取組も紹介します。

海外からの感染を防ぐプロフェッショナル

世界各国における都市化の拡大、海外旅行などの人々の移動、自然開発による人間活動の拡大化など、グローバル化に伴う感染症の拡大懸念は高まっています。海外からの感染を防ぐための検疫のしくみについて紹介することを検討します。

展示室1 いのちを支えるプロフェッショナル イメージ



3.1-5 展示室2 いのちを育む、みんなが生きる地球

屋外ゾーンの紹介や剥製・標本の展示を通して生物多様性を学びます。

これまでの体験学習を通して、人・動物・環境のつながりを地球の視点から考えます。

(1) 緑の星のライブラリ

動植物や環境に関する絵本・書籍を配架すると共に、関連した標本や資料などを展示します。また県内の自然環境について展示し、森林から海に至るまでの環境のつながりとその保全や再生などについても紹介します。

えほん動物園

動物が主人公となる絵本や、動物の図鑑・写真集など、動物に関する書籍が集まる「本の動物園」です。絵本に関連した動物の剥製や骨格標本などの資料や、野生生物の保護に関する情報展示などとあわせて展示し、子どもから大人まで楽しめる内容とします。

えほん水族館

魚類や鯨類をはじめ、海洋生物や水生生物が描かれた絵本や図鑑などの書籍が集まる「本の水族館」です。水生生物の標本・模型や海洋環境の保全に関する情報などを組み合わせて、年齢に応じて興味をもてる内容とします。

えほん植物園

花や樹木など、様々な植物をテーマにした絵本や写真集、図鑑などの書籍が集まる「本の植物園」です。植物標本や造形、ジオラマなどを周囲に配置したり、本棚の一部が地層になっていたりするなど、本のテーマや内容とつながりのあるディスプレイ展開を検討します。

人と動物、環境をつなぐ人々

医師や獣医師をはじめ、動物園の飼育員や自然博物館の学芸員、農林漁業者、畜産従事者など、人・動物・環境に関わる様々な人の関連書籍を紹介するコーナーを検討します。

ネイチャーガイドの部屋

様々な生物の標本づくりを行う研究者のデスクなどを再現した展示を検討します。標本づくりのプロセスや、顕微鏡観察などを通じて、実際に研究者が行っている研究活動を疑似体験し、生物多様性保全の取組に理解を深めてもらいます。

(2) 福岡県の生物多様性

本県の自然環境と、生物多様性を保全する取組について、屋外ゾーンと連携しながら紹介します。県内の希少生物の保全や育成の取組などにもふれ、本県の自然をより豊かにしていく活動などを紹介します。

屋外ゾーン

1960 年代の筑後地域の里地里山の再現を目指した屋外フィールドです。山から里へと続く景観をイメージしたエリアを各所に設定しながら、里地里山環境を育成していきます。オープン時は苗木から始まり、数十年をかけて育てていく試みです。

自然観察ステーション

屋外ゾーンと連携し、自然観察のための情報を紹介する展示を設定します。数十年後に成長を果たした屋外ゾーンの姿をイメージできるジオラマの展示を検討します。

福岡県の豊かな自然

森林から海洋まで、本県の豊かな自然を紹介します。展示展開の例として、県域の自然を表現したスケールジオラマや、生物デジタル 3D データを活用した 3D 標本などが考えられます。発展的な展示として、屋外ゾーンで観察することができる両生類、は虫類などの飼育展示も検討します。

英彦山の在来種と環境保全

英彦山のブナ林が直面している在来種のシカの増加による食害などの課題について紹介します。

森の働きを守る（林業と環境）

林業と森林環境の保全について紹介します。人間の手によって整備される自然環境としての森林にふれ、人と環境の関わりについて「森を育て、利用する」視点から考える展示を展開します。

(3) はてなきつながりをみんなで考える

人・動物・環境のはてなきつながりを地球の視点から考えていく展示です。宇宙から見た地球の姿や、生命の進化と絶滅など、地球と生命史との関わりについて考えるテーマや、様々な環境でくらす生き物の姿など、地球規模のスケールで生命のつながりを実感できるコンテンツを展開することが考えられます。

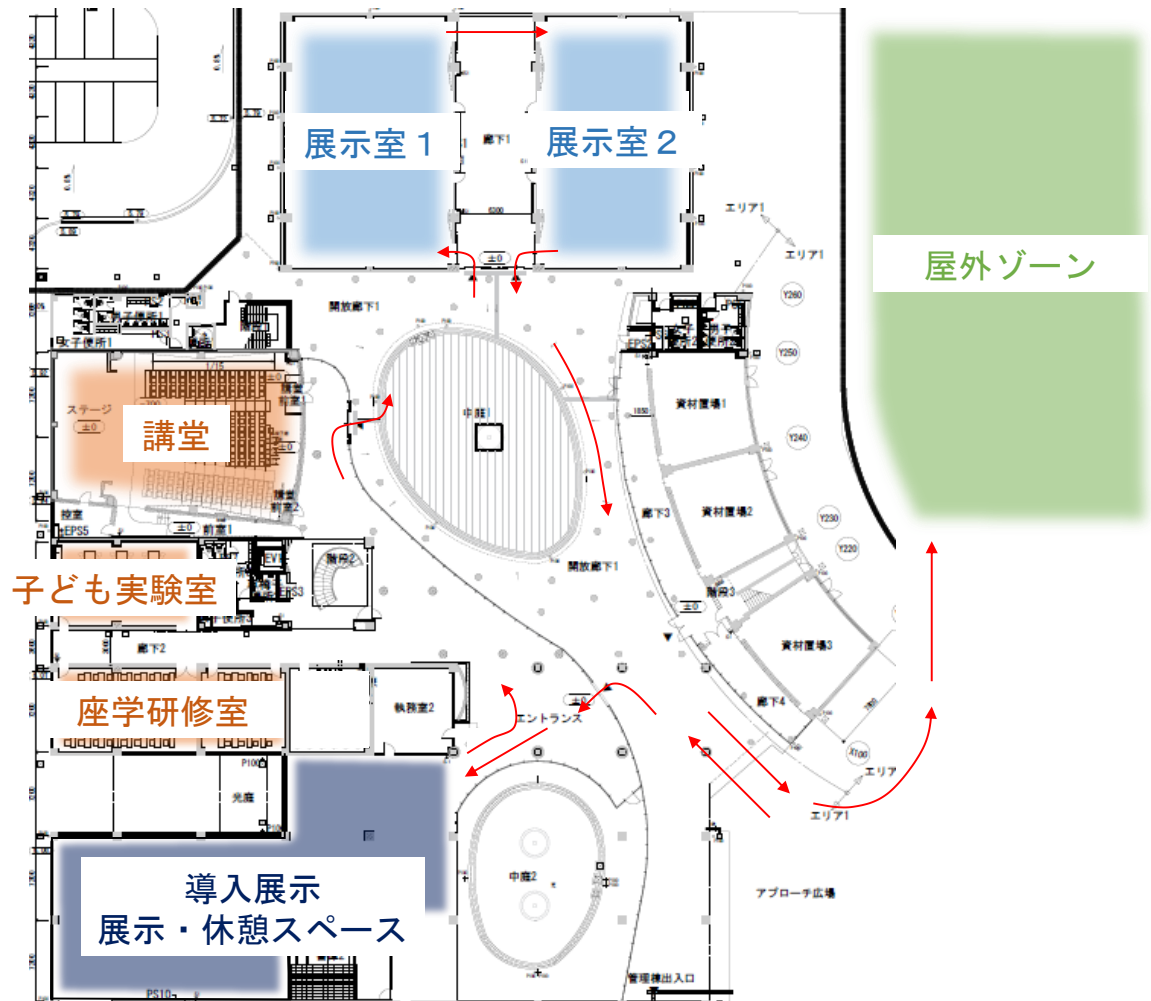
展示室2 いのちを育む、みんなが生きる地球 イメージ



3.1-6 わたしのワンヘルス宣言

これまでの体験や学びを振り返りながら、自分が興味をもったことや、これから実行したいワンヘルスの活動など、将来にわたる実践を来場者一人ひとりに宣言してもらいます。一人ひとりの「ワンヘルス宣言」を記入し、他の来場者と共有することで、体験学習の感想や気づきなどについて意見交換し、誰もがそれぞれの興味を入り口にワンヘルスの取組を始められることを理解してもらえらるきっかけとします。

3.2 展示ゾーニング（案）



3.3 教育・普及

3.3-1 ワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）における教育・普及のあり方

子どもたちをはじめ訪れる全ての人が、ワンヘルスについて学び交流できる体験学習の活動を検討します。

3.3-2 教育・普及におけるワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）活用例

校外学習の受け入れ

校外学習の受け入れができるような、カリキュラムと関連したプログラムを検討します。総合学習の一環として、ワンヘルス教育の場として認知を広め、ワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）の活性化を図ります。

生物多様性に関する学習

屋外ゾーンを中心に、生物多様性をテーマとした学習プログラムを計画します。実際にフィールドで観察できる生物や植物の生態から、生物多様性に関する知識を深める体験を提供します。

生き物観察会の開催

解説スタッフなどとコミュニケーションをとりながら、動物や植物の観察ができるフィールドワークを行い、ワンヘルスというテーマを身近な題材から考え、発見する機会を創出します。

子ども実験室における科学実験教室

ワンヘルスをテーマとした科学実験教室の開催を検討します。屋外ゾーンの水路などで採取した微生物を顕微鏡で観察したり、簡易水質検査を行うなどのプログラム展開を検討します。

座学研修室におけるワークショップ・セミナー

ワンヘルスをテーマとしたワークショップやセミナーなど、対話を通じてワンヘルスへの興味・関心を引き出していくプログラムの実施を検討します。

企画展の開催

ワンヘルスをテーマとした企画展の開催を検討します。

ワンヘルスの日や環境月間、夏休み期間中などにおけるフェア・イベント

世界ワンヘルスの日や環境月間など、ワンヘルスに関連した記念日や時期に応じた企画を検討します。また、夏休みなどの長期休暇に合わせたイベントの実施で、親子・家族でワンヘルスに親しむ機会づくりを検討します。

県民への座学研修室の貸出

県民が主催するワンヘルスをテーマとした各種講座などへ、ワンヘルス体験学習ゾーン（仮称）のスペースを提供することにより、専門的な学びにも利用しやすい場づくりを検討します。子どもから大人まで、健康や環境などをテーマとした生涯学習の場としても活用できるしくみを検討します。

講堂における学術シンポジウム・研究発表

全国でも類のないワンヘルスを学習する場として、ワンヘルスをテーマにした学術シンポジウムや研究発表会の開催を検討します。

研究所バックヤードツアー

研究所の一部公開を検討します。研究者などから調査・研究について説明を受けることのできる機会をつくり、県民をはじめとする来場者のワンヘルスへの理解を深めます。

第 4 章 運営計画

4.1 集客計画

(1) 想定来場者

小・中学生

生活科・理科・総合的な学習の時間などに関連した体験学習プログラムを提供します。

高校生

社会科・理科教育と連携したり、大学進学希望者の学部選択の検討に役立つ場を検討します。

観光客

子供から大人までワンヘルスを体感できる学びの場として、ファミリーをはじめとした観光客が楽しむことができる展示内容を検討します。

ワンヘルスに興味をもつ大人

動物・植物・環境など、自然科学や生態学などに興味を持っている人や、健康に対して高い関心を持っている人が想定されます。日ごろから動植物に触れることなどに積極的な層に向けて、ワンヘルスを知る機会を提供します。

研究者

国内外の研究者がワンヘルスに関する教育・普及の場を視察できる場としての活用を検討します。

(2) 集客方法

以下の集客方法を検討します。

- ・ 学校や旅行会社と連携した修学旅行・教育旅行の誘致
- ・ 観光パンフレットや県観光 HP、SNS における情報発信
- ・ シンポジウムやフォーラムの開催

4.2 開館時間・入館料の設定

(1) 開館時間

近隣施設や類似施設を参考に、多くの人々の利用のしやすさと、効果的な管理・運営の両立を図ることを念頭に、開館時間・休館日の設定を検討します。

(2) 入館料について

今後、詳細な運営計画を検討し、それに即した入館料の徴収を検討します。入館料については、有料にすることによるセキュリティへの配慮や、無料化による幅広い利用者への開放など、様々な視点からの検討が必要と考えられます。入館料を設定する場合は、近隣施設や類似施設を参考に、本県の事業としての公益性をふまえて適正と思われる料金設定を検討します。

4.3 類似施設事例

	設置者	施設名	来館者数 人／年	施設規模（以下のどちらか）		運営方式	指定管理業者	開館時間	休館日	入館料		参照 資料年度
				展示面積	建築面積					常設	企画	
1	品川区	エコルとごし	219,553	不明	937.17 ㎡	指定管理	アクティオ	7 時～21 時 30 分	・毎月第 4 月曜日 （祝日の場合は開館し、翌平 日休） ・年末年始（12/29 日～1/3）	無料	無料	令和 5
2	日立市	日立シビックセンター 科学館サクリエ・天球劇場	102,535	不明	4,671 ㎡ （シビックセ ンター全体）	指定管理	公益財団法人 日立市民科学 文化財団	9 時から 17 時まで （最終入館 16 時 30 分）	・毎月最終月曜日（祝日にあ たる場合は開館） ・年末年始（12/28～1/4 ま で）	・大人：500 円 ・小中高、高齢者(65 歳以上)：200 円 ・障がい者・幼児：無料 ※科学館・天球劇場ともに同額 【セット券】 ・大人：750 円 ・小中高、高齢者(65 歳以上)：300 円 ・障がい者、幼児：無料		令和 5
3	静岡県	ふじのくに地球環境史 ミュージアム	48,924	展示室：945.349 ㎡ 企画展示室：199.095 ㎡	3,569.49㎡ ²	県直営方式	静岡県	10 時～17 時 30 分 （最終入館 17 時）	・毎週月曜日 （月曜日が祝日の場合は次の 平日） ・年末年始	・個人：300 円 ・団体：200 円 ・大学生以下、70 歳以上：無料	企画展 毎	令和 4
4	船橋市	ふなばし三番瀬環境学習館	47,481	不明	2,844.51 ㎡	指定管理	F S Pグループ 構成員（代表者） （1）公益財団法人 船橋市公園協会	9 時～17 時	・月曜日 ・年末年始（12/29～ 1/3）	・一般：400 円 ・高校生：200 円 ・小中学生：100 円 ・市内在住在学の小中学生、未就学児 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保 健福祉手帳を お持ちの方ご本人と介護者 1 人：無料		令和 1
5	大阪市 建設局	大阪下水道科学館	不明	不明	3,544 ㎡ （延床）	運営委託	-	9 時 30 分～17 時 （最終入館 16 時 30 分）	・毎週水曜日(休日の場合は翌 平日) ・年末年始	無料	無料	-
6	北九州市	北九州市立いのちのたび博 物館	8,125,631	約 6,232 ㎡	17,000 ㎡ （延床）	直営＋一部運営委託		9 時～17 時 （最終入館 16 時 30 分）	・年末年始 ・毎年 6 月下旬頃（害虫駆除）	・大人：600 円 ・高校生：360 円 ※高校生以上の学生 ・子供：240 円 ※小中学生 ・幼児：無料 ※小学生未満		令和 4

	設置者	施設名	来館者数 人／年	施設規模（以下のどちらか）		運営方式	指定管理業者	開館時間	休館日	入館料		参照 資料年度
				展示面積	建築面積					常設	企画	
7	北九州市	スペース LABO 北九州市科学館	510,063	約 1,863 ㎡ ・ 1 階 約 311 ㎡ ・ 2 階 約 1,125 ㎡ ・ 3 階 約 427 ㎡	約 5,470 ㎡ (延床)	直営＋一部運営委託	株式会社五藤光学研究 所	10 時～18 時 (最終入館 17 時 30 分)	・ 年末年始	【個人】 ・ 一般：400 円 ・ 中高生：300 円 ・ 小学生：200 円 ・ 北九州市・福岡市・熊本市・鹿児島市・下 関市在住で 65 歳以上の方：120 円 【団体】 ・ 一般：320 円 ・ 中高生：240 円 ・ 小学生：160 円		令和 4
8	豊橋市	こども未来館ここにこ	360,067	不明	7,215 ㎡ (延床)	指定管理	ニコリン共同事業体	・ 子育てプラザ 9 時 30 分～17 時 ・ 体験・発見プラザ 9 時 30 分～17 時 ・ 集いプラザ 9 時 30 分～21 時	・ 毎週水曜日 ・ 年末年始 (12/29～1/1)	【個人】 ・ 小中高校生：150 円 ・ 大人：300 円 【団体】 ・ 小中高校生：120 円 ・ 大人：240 円 ※入場無料 対象の方 ・ ほの国こどもパスポートをお持ちの方 ・ 未就学児 ・ 身体障害者手帳、療育手帳または 精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方およ び付添の方 ※まちづくりセンター 無料		令和 3
9	八王子市 教育委員 会	コニカミノルタ サイエンス ドーム(八王子市こども科学 館)	12,083	不明	2,996.06 ㎡(延 床)			●土曜・日曜・祝日・休日 および 夏・冬・春休み期 間 10 時～17 時●火曜日か ら金曜日一般のお客様は 12 時～17 時(9 時～12 時 は団体専用)	・ 月曜日・年末年始・その他 プラネタリウム番組入れ替え 期間など	[プラネタリウム] ・ 大人 500 円 ・ 4 歳から中学生 150 円 ・ 3 歳以下無料[科学館] ・ 大人 200 円 ・ 4 歳から中学生 100 円 ・ 3 歳以下無料		令和 2
10	公益財団 法人沖縄 こどもの 国	沖縄ワンダーミュージアム 沖縄こどもの国	531,485	不明	3,478 ㎡	直営	公益財団法人沖縄こど もの国	平日 9 時 30 分～17 時 30 分 土日祝 9 時 30 分～21 時	毎週 火曜日	・ 大人 200 円 ・ 4 歳～高校生 100 円 ・ 3 歳まで無料		令和 4

	設置者	施設名	来館者数 人／年	施設規模（以下のどちらか）		運営方式	指定管理業者	開館時間	休館日	入館料		参照 資料年度
				展示面積	建築面積					常設	企画	
11	山梨県	山梨県立リニア見学センタ ー	188,006	不明	◆どきどきリ ニア館 2098.51 ㎡ （延床） ◆わくわくや まなし館 474.93 ㎡（延 床）	指定管理	合同会社 丹青やまな し	9 時～17 時 （最終入館 16 時 30 分）	・毎週月曜日 ・祝日の翌日 ・年末年始（12/29～1/3）	【個人】 ・一般、大学生：420 円 ・高校生：310 円 ・中学生、小学生：200 円 【団体】 ・一般、大学生：340 円 ・高校生：250 円 ・中学生、小学生：170 円		令和 2
12	豊岡市	植村直己冒険館	58,205	不明	945㎡（延 床）	直営	豊岡市	9 時～17 時 （最終入館 16 時 30 分）	水曜日 （祝日の場合は、翌日休・ 12/29～1/3）	[ミュージアムエリア] ・大人（高校生以上）：550 円 ・子ども（3 才以上～中学生）：330 円 [どんぐり base] ・大人（高校生以上）330 円 ・子ども（3 才以上～中学生）：550 円 [ミュージアムエリア+どんぐり base] ・大人（高校生以上）770 円 ・子ども（3 才以上～中学生）：770 円		令和 3
13	埼玉県	埼玉県環境科学国際センタ ー	42,875	不明	8,722 ㎡（延 床） 7,223.63 ㎡ （建築）	直営	埼玉県	9 時 30 分～16 時 30 分 （最終入館 16 時）	月曜日（ただし、休日、県民 の日は開館） 開館した月曜日の翌平日（県 民の日の翌日は開館） 年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日まで）	【個人】 一般 300 円 学生・高校生 200 円 【団体（20 名以上）】 一般 180 円 学生・高校生 120 円 中学生以下、障がい者手帳等を お持ちの方（付添 1 名を含む）は無料		令和 4
14	福岡市	福岡市科学館	890,030	2,900 ㎡	10,150 ㎡（延 床）	指定管理	株式会社トータルメデ ィア開発研究所	9 時 30 分～21 時 30 分	火曜日 年末年始(12 月 28 日～1 月 1 日)	【個人】 大人 510 円 高校生 310 円 小・中学生 200 円 【団体】 大人 460 円 高校生 280 円 小・中学生 180 円		令和 5
15	福岡県	福岡県青少年科学館	19,067	不明	3,133.2 ㎡（建 築） 8,039.61 ㎡ （延床）	指定管理	福岡県青少年科学館運 営グループ	平日 9 時～16 時 30 分 （最終入館 16 時） 土日祝 9 時 30 分～17 時 （最終入館 16 時 30 分）	毎週月曜日（月曜日が祝日の 場合は翌日） 館内整理日（月に 1～2 日程 度） 年末年始	【個人】 一般 410 円 児童・生徒 210 円 【団体】 一般 310 円 児童・生徒 160 円		令和 4

4.4 運営方式

運営方式については、近隣施設や類似施設を参考に、適切な方針の検討を進めます。

運営方式	直営方式	一部業務委託方式	指定管理者方式
概要	○自治体が自ら管理運営を行う方式。	○自治体が自ら管理を行い、運営や施設の維持管理業務の一部を委託する方式。 ○業務期間は基本的に単年度。（複数年で契約先を選定し、毎年随意委託する場合もある。） ○維持・運営業務の一部を委託する方法から、各業務をそれぞれ得意とする会社に委託する方法などがある。	○公の施設の管理権限を、自治体の指定する法人に一定期間、包括的に委任して管理させる。 ○公の施設の設置・管理に関する条例等で定める必要がある。 ○指定管理者の指定には、議会の議決が必要。 ○標準的な指定期間として3～5年。 ○1事業者による場合のほか、複数事業者によるコンソーシアム等が指定管理者となることも可能。
メリット	○自治体の方針等を直接運営に反映しやすい。 ○自治体内部の連携や、他の公共施設、施策等との連携をはかりやすい。 ○事業の安定性、継続性を担保しやすい。	○仕様発注となるため、発注ごとに仕様の設定・見直しが可能。 ○事業の安定性、継続性を担保しやすい。	○性能発注という特性上、民間事業者などの専門性やノウハウ、柔軟性を活かし、経営的な発想や事業展開、サービス向上をはかることができる。 ○民間事業者等のノウハウにより、事業の効率化が期待できる。 ○民間事業者にとってのインセンティブ（利用料金制など）を働かせることで、導入効果を上げることが期待できる。
デメリット	○長期的な運営による人材の固定化・硬直化により柔軟なサービスを提供できない可能性がある。 ○コスト意識が低下する可能性がある。	○発注業務、業務間の管理・調整に自治体側の負担が増える。 ○業務の手順等を細かく定めた仕様を作成する必要がある。 ○仕様書の範囲内での業務となるため受託者（民間）のノウハウが活かされにくい。	○指定管理者の公募・選定業務などの負担が増える場合がある。 ○指定管理期間が通常3～5年と短期間であることをふまえ、中長期的な観点での事業展開や、事業の安定性・継続性の担保に留意する必要がある。 ○事業の現場のノウハウが自治体に蓄積されにくい。

4.5 運営形態

(1) 運営形態の検討

各所と連携したスタッフの配置

充実した活動を展開するため、保健環境研究所や動物保健衛生所との相互連携をはじめ、ワンヘルスに関する専門的な知識や経験を有するスタッフの配置を検討します。

ボランティアの活用

専門的な知識や経験を必要とする人材だけでなく、教育・普及活動に参画いただける幅広いボランティアの活用を検討します。

関連機関との連携

学校・大学、企業、県内外の各種施設、NPO等、様々な団体等とネットワークを構築します。また、これらの団体との連携のもとで事業を推進します。

(2) 事業評価や展示更新計画の検討

効果的・効率的な運営や適切な運営が行われているかを判断できるよう、本県の事業評価のしくみに合わせた運営の点検・評価を検討します。年次ごとの評価を適宜反映させることで、運営をより良いものへとしていくしくみの構築を検討します。また、将来の展示更新に備えたリニューアル計画も検討していきます。

4.6 整備スケジュール

